

2025 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	助教	谷口 正博
最終学歴	学 位	専門分野
神戸芸術工科大学大学院 総合デザイン専攻修了	博士（心理 学）	デザイン学、エンターテイメ ント情報学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

常に変化する状況を捉え、たとえ正解ではないとしても、そこにつながる可能性を多く作り出す

【目標】

クリエイター視点でのユーザーからオペレーター、そしてデベロッパーへの成長促進

【方針】

社会において活躍できる機会を可能な限り提供し、実践教育とする

【計画（方法）】

スキル習得とクリエイティブで独自性ある運用力について、自ら情報発信できる能力を目指した教育体制のもと各授業、ゼミを進行する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

東邦プロジェクト B、地域ビジネス特講 I、デジタルプレゼンテーション、先端表現技術、基礎演習 I、専門演習 I、専門演習 III

（外部機関出講科目：モーショングラフィックス基礎）

（後期）

東邦プロジェクト C、先端表現技術演習、基礎演習 II、専門演習 II、専門演習 IV

（外部機関出講科目：モーショングラフィックス演習）

○教育方法の実践

産学連携事業による大学外での実務実践教育を導入。

2025 年度では連携企業の組織理念、開発製品を含めたりブランディングを外部ディレクターをアドバイザーとして招聘し実践。その様子を目の当たりにし変革を体験する学習指導を行う実務教育として展開した。

○作成した教科書・教材

産学連携事業による連携企業（株式会社 ZINAZOL）ブランドブックを作成し、産学連携企画における参加学生の教科書として使用した。

また、2024 年度に作成した Adobe Firefly（画像生成 AI）についての基本操作を学ぶ教材を、2025 年度内容に更新し PDF データ形式で作成し、授業内での実践と学生の自主学習に活用した。生成 AI 分野の進化は非常に速いため年度更新では全く追いつかない状況であり、より短期間での更新が今後は求められる。

○自己評価

何のための学習か、スキル習得かという問いへの回答の一つとして実務実践の現場を提供したことにより、学習効果を実感のともなうものとしたことで、学生の学習モチベーション向上につながったと考えられる。

クリエイティブ、デザイン教育に活用した Adobe 社アプリケーションは確実に学生の表現力を上げる効果があり、様々な情報アウトプット、プレゼンテーションのクオリティを高め、内容の訴求力、説得力を強化する効果に寄与している。

II 研究活動

○研究課題

プロジェクションマッピング・サイネージ映像演出による空間価値向上の研究。

映像配信、高輝度映像投影、高輝度照明演出、VR コンテンツを活用した情報発信、特殊環境下における情報共有、緊急時・非常時も含めた情報伝達方法、没入体験演出に関する研究。

○目標・計画

【目標】

公共イベント、商業広告、地域特色を活かした情報発信に基づく映像演出を継続する。

一般的に体験の難しい特殊環境などの疑似体験、教育学習に関連した映像配信、演出について手法を確立させる。

【計画】

情報発信・配信手段としての演出効果を主に技術面と感性面との研究で進め、その効果を大小様々な規模空間で実践する。また、その演出効果記録を公共展示企画立案により多くの体験機会を提供するとともに、インターネットにおいて配信公開する計画とする。

2024 年度からは各地の博物館との共同研究企画が動いており、2025 年度においても同様の計画で進めている。

○2018 年 4 月から 2026 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・愛知東邦大学地域創造研究所叢書 2023

発行：唯学書房

共著：上條憲二、榎澤祐一、谷口正博、大平里香

（学術論文）

（学会発表）

- ・日本ビジネス実務学会中部ブロック研究会「プロジェクション・イルミネーションイベント企画制作運営における現場体験の提供」（2022 年）

<http://jsabs.hs.plala.or.jp/block-news/chubu/2500/>

- ・関西ベンチャー学会九州研究部会・中部経済研究部会、合同発表会「イベント運営を通じたアントレプレナーシップ教育の試み」（2022 年）

<http://www.kansai-venture.org/?p=4235>

- ・京都鉄道博物館企画展示「山陽新幹線開業 50 周年記念展」イマーシブ映像研究実演展示 没入映像装置による高速鉄道運転士視点の疑似体験（2024 年）

- ・山口県立山口博物館企画展示「山陽新幹線開業 50 周年記念展」イマーシブ映像研究実演展示 実物運転台を伴う没入映像装置による高速鉄道運転士視点の疑似体験（2025 年）

(特許)

(その他)

- ・日本財団・海と日本プロジェクト-2018 徳島 映像制作・TV コンテンツ配信 (四国放送) (2018年)
- ・岐阜 2020 公共建造物を利用した地域 PR 岐阜青年会オンラインコンテンツ <https://expo2020.gifujc.or.jp> (2020年)
- ・ケミストリーベンチャー企業「株式会社 DESIGN 京都」WEB サイト・プロモーション動画・ビジュアルブランディング (2021年)
- ・「うごキャラ」インタラクティブ・プロジェクションショー 防府市地域交流センター「アスピラート」(2021年)
- ・愛知東邦大学 L 棟ライトアップ「ウクライナ・平和を祈る光」(2022年)
- ・「うごキャラ 2」インタラクティブ・プロジェクションショー 防府市地域交流センター「アスピラート」(2022年)
- ・「ZINAZOL×愛知東邦大学・ポップアップ」(5月開催) 松坂屋名古屋栄店 (2023)
- ・「東邦学園納涼音楽祭・イルミネーションライトアップ演出」(2023)
- ・「売木村ウルト RUN・マラソン大会 youtube ライブ配信」長野県売木村 (2023)
- ・「ZINAZOL×愛知東邦大学・ポップアップ」(11月開催) 松坂屋名古屋栄店 (2023)
- ・「愛知東邦大学卒業証書授与式・」イルミネーションライトアップ演出」(2024)
- ・「売木村ウルト RUN・マラソン大会 youtube ライブ配信」長野県売木村 (2024)
- ・「売木村ウルト RUN・マラソン大会 完走証デザイン制作」長野県売木村 (2024)
- ・「C・PMU がんとアートメイク出展」イオンモールノリタケガーデン (2024)
- ・「ZINAZOL×愛知東邦大学・ポップアップ」(10月開催) 熱田神宮東公園 (2024)
- ・「新幹線イマーシブムービー体験施設展示企画」(10月～12月開催) 京都鉄道博物館 (2024)
- ・「愛知東邦大学卒業証書授与式・」イルミネーションライトアップ演出」(2025)
- ・「新幹線イマーシブムービー体験施設展示企画」(7月～8月開催) 山口県立山口博物館 (2025)
- ・「アカデミックフェスタ・L 棟イルミネーションライトアップ」(3月開催) (2026)

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

特記なし

○所属学会

日本ビジネス実務学会

○自己評価

博物館におけるアカデミックな研究分野成果の企画展示が継続し、新たな試みを実装する成果が得られている。この間にも常に新技術は現れ続けており、これらの調査研究を常時行うことで導入実装に繋げ、研究分野としても常に新しい探究を行わなければならないと強く感じている。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

地域産学連携委員会での活動、他各種活動を通じて大学運営に貢献する。これまでの活動から継続し、大学広報コンテンツ制作、イベント映像配信などに、私のスキルと研究内容を直結させより効果的な展開を目指す。

2025 年度に入学生を迎える経営学部コミュニケーション・デザイン学科について、2 年次の学科選択において定員数確保に繋げるため、学科の特色、魅力発信を目指した活動を行う。

【計画】

名古屋、東海地域の連携パートナー、新規パートナー、商業施設への積極的なアプローチを行い、地域特性の理解と連携イベントへの実現に向け活動に取り組む。

コミュニケーション・デザイン学科に関しても、クリエイティブ分野と関係する機関との連携をより深め学科運営準備を進める。

○学内委員等

地域・産学連携センター 委員長

経営学部執行部

○自己評価

地域・産学連携センターにおいて長野県売木村における大学連携活動として現地イベントの 프로모ーションを実施。またこれらの広報告知ツールとしてポスターなどの制作を行い活用した。

経営学部執行部では 2025 年度入学生に対し、学科選択時にコミュニケーション・デザイン学科選択の可能性を高めるための情報提供、学習体験を実施した。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

企業、行政、各教育機関、商業施設との関係形成を行い、協働プロジェクトによる価値創造に貢献する。

【計画】

連携パートナーとして株式会社 ZINAZOL とのプロジェクトは 5 年目となった。2025 年度は大学連携の企業側のメリットを具体的な利益・収益として位置付けられるよう、大手広告代理店ディレクター経験者の協力を得て、リブランディングの取り組みを継続する。引き続き商業施設へのポップアップストア計画として学生企画商品を販売する。

同様に長野県売木村との連携企画には今年度も大学単位、ゼミ単位での関わりを継続する。

○学会活動等

「協定校との地域連携活動による学生交流およびそれによる FD の推進」学生参加企画としての地域連携活動報告交流会（STATION Ai、愛知東邦大学）2025

○地域連携・社会貢献等

長野県売木村との連携企画に学生参加を促し、学生主体での運営を行い現地での活動のみならずフリーペーパー「売木村ブランドブック」作成を進める。

○自己評価

株式会社 ZINAZOL リブランディングに関は外部ディレクターの協力により 2025 年度にコンテンツ関連を完了予定としており、その変化を学生が間近に体験できる貴重な学習機会提供ができたと考えられる。

また、2025 年度も継続し学生が主体となる形で長野県売木村連携でマラソン大会の完走証デザインを行い、充実した企画運営が可能となっており、学生の実務体験の場として発展を目指したい。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

研究分野となる映像メディア、xR 関連分野は日々更新されており、習得理解のための学びは欠かすことが出来ない。最新の状況に触れるため、専門業界向けビジネスフェア・カンファレンスへの参加を積極的に行い、常に研究・教育にフィードバックできる状況を作り出し、学生参加の機会創出に繋げることで、総合的な教育学習効果を高めていく。

VI 総括

今年度では更なる多方面分野、多地域へと展開することが叶った。特に博物館に関連した研究内容の推進と発表は意義のあるものであり、継続的な成果としていきたい。

また、社会状況は常に変動しているが、動向の見極めと取り入れるべき知識、新分野への積極的な関わりを持って活動の継続発展を目指したい。

以 上